

## V234a SuMIRe-PFS[17]: PFS の科学運用の検討の進捗状況報告

小野寺仁人, Eric Jeschke, 田中賢幸, 古澤久徳 (国立天文台), 田村直之, 矢部清人, 安田直樹 (Kavli-IPMU), Robert Lupton (Princeton University)

すばる望遠鏡に搭載される Prime Focus Spectrograph (PFS) は 2020 年からのコミッショニングおよび 2022 年からの共同運用開始が予定されている。PFS は直径 1.3 度角の視野内に 2394 本のファイバーを配置し、可視光 2 チャンネルと近赤外線 1 チャンネルからなる分光器モジュール 4 つをもちいてデータの取得をおこなう。このような大規模かつ複雑な広視野多天体分光データから科学的成果を最大限に抽出するには、これまですばる望遠鏡でおこなってきた運用形態の発展的な見直しが必要であると考え、現在我々はその検討を進めているところである。検討内容はたとえば、ターゲット天体情報や観測の進捗状況の効率的なデータベース化、キュー観測による気象条件等に応じた柔軟な観測視野の切り替えや複数プログラム間の観測視野の共有、データ取得直後の品質評価およびデータベース更新の自動化、観測者への整約済みデータの配布、などがある。本講演では、我々がおこなっている PFS の科学運用形態の検討について、進捗状況を報告する。